

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『文豪の猫』アリソン・ナスタシ／著
エクスナレッジ 2018.12 902.05/7 18Z

猫ブームが話題になって久しいですが、「作家と猫」との組み合わせも相性抜群のようで、昨今多くの文人たちが猫の気ままで謎めいた性質に魅了されてきました。本書には、世界の45人の作家と猫との関係が写真とともに見開きで紹介されています。日本からも村上春樹と大佛次郎が掲載されています。ときに気難しく孤独といったイメージを持たれやすい作家たちですが、愛猫を前に見せる柔らかな表情に素顔が垣間見られて素敵です。

『ロブスターの歴史』エリザベス・タウンサンド／著
原書房 2018.12 664.76/7 18Z

ロブスターを食べたことはありますか？日本ではそこまでポピュラーではないロブスターですが、ヨーロッパでは石器時代から食べられていました。巻末のレシピ集には5世紀の調理法も掲載されています。第5章「人道的な殺し方と調理法」では生物と人間との共存について考えさせられます。「食」の図書館シリーズは他にも「ホットドッグの歴史」「バーベキューの歴史」などがあり、興味深いラインナップとなっています。お手に取ってみてはいかがでしょうか。

『静寂と沈黙の歴史 ルネサンスから現代まで』
アラン・コルバン／[著] 2018.12 230.5/7 18Z

日常の中で静けさを感じることはあるでしょうか。絶えず音が溢れている現代において、静寂や沈黙に苦痛を感じる方もいるかもしれません。

この本では、場所や物、自然、宗教、言葉など、様々なものから静寂や沈黙を読み取り、それに含まれる意味を読み解いていきます。私たちの身近にも宿っている静けさという贅沢について、考えてみることでできる一冊です。

児童・児童図書研究

『新しい心のバリアフリーずかん』中野 泰志／監修
千谷 文子・石井 信子・川島 晶子／文・構成
川島 晶子／編 ほるぷ出版 2018.9 369/4

日常にある「バリア」を理解することで、「心のバリアフリー」に近づくことが出来ます。ポイントとなるのは3つの考え方。本書では3つをカギとして「あたりまえ」を見直します。みんなが暮らす町にあるバリアと、解消するための工夫。バリアとは何か、工夫とはどんな取組みがあるのかを理解することで、みんなが暮らしやすい「あたりまえ」を考えてみませんか。

雑誌・新聞

年度が替わり、また新たな始まりを迎えました。4月から「働き方改革」が始動し、長時間労働の是正や非正規-正規の格差解消、また、多様性がある働き方を推進していくことが目標とされています。さらに「外国人労働者」の受け入れ等も注目されています。そこで今回は、「働き方改革」と「外国人労働者」をテーマに取り上げた雑誌をご紹介します。

『季刊労働法』264号、2019.春 Z366.1/R7
特集：動き出す「働き方改革」

『ハウジング・トリビューン』2019.No6, VoL.575
Z527/H1
特集：職人不足の救世主となるか 外国人労働者どう受け入れる！？

また、改元を迎えたことで注目を集めている「元号」についての雑誌もご紹介します。

『マスターズ Masters 日本経済の未来を創る経営者たち』第37巻4号、通巻451号、2019.4
Z051/K36/3-
特集：大化から平成、そして — 今こそ元号のこれまでを振り返る

地域

『原町市史 第2巻 通史編2 近代・現代』
南相馬市教育委員会文化財課市史編さん係／編
南相馬市 L219/H1/2-2-1

1997年度に始まった『原町市史』はこの巻をもって完結しました。明治から平成の大合併による南相馬市誕生までの通史となります。同時に別冊として年表も刊行されました。完結まで約20年かかった労作です。他の巻とあわせてぜひご利用ください。

『つなぐ 駅伝 Fukushima ふくしま駅伝30回記念誌』福島民報社／編 福島民報社 L782.3/F4/4

今年の1月に開催された全国男子駅伝で福島県が初優勝を飾ったことは記憶に新しく、東北勢初の快挙に県民はとて勇気付けられました。

本書は平成元年から始まった「ふくしま駅伝」30回の歴史や記録を振り返るのは勿論のこと、「山の神」柏原竜二さんを招いて行われた講演会やインタビューのほか、箱根駅伝をはじめとする全国大会での「福島県勢活躍の記録」等も掲載されており、盛りだくさんの内容となっています。駅伝と共に「平成」を振り返る記念誌です。ぜひお手に取ってみてください。